

# 都市のOR ウィンターセミナー2020

## 12月5日(土)・6日(日)

12月5日(土)			
13:15-14:40	Session 1-1		
	1-1	バスプローブデータを用いた筑波山交通渋滞の分析	徳田伊織(筑波大学)
	1-2	視線計測によるキャンパス・グリーンインフラの更新	西美佳(筑波大学)
	1-3	立体角を用いた函館夜景の解析	幸坂麻琴・西村詩央里(筑波大学)
	1-4	検査順序スケジューリング ー健診センターカラダテラス海老名の事例ー	眞鍋歩乃佳・伊藤真理・高嶋隆太 (東京理科大学) 鵜飼孝盛(防衛大学校) 小松英之・関知鶴・折茂靖司 (カラダテラス海老名)
14:40-14:55	休憩		
14:55-16:15	Session 1-2		
	1-5	距離分布の基本公式 その2	腰塚武志(筑波大学)
	1-6	ドローン配送における上空利用料に関する基礎理論	下津大輔(筑波大学)
	1-7	自転車走行環境と走りやすさの計測	末松菜々子(筑波大学) 巖先鋪(東京大学) 鈴木勉(筑波大学)
	1-8	地価から考察するまちの重力(仮)	小嶋和法 (トヨタ自動車 (株)未来創生センター)
16:15-16:30	休憩		
16:30-17:30	Special Session		
	特別講演	列車・バスを使ってどこまでもたどり着ける国土を考える -日本、スイス、高知-	田口東(中央大学)

12月6日(日)			
9:10-10:30	Session 2-1		
	2-1	協力と競争を考慮した新規参入航空会社のネットワーク設計モデル	日比野尋伯・佐々木美裕 (南山大学)
	2-2	交通の利便性を考慮した介護予防のためのサービスの提案	眞田智貴(東京理科大学)
	2-3	トラック隊列走行における到着間隔を考慮した隊列形成の評価	戸田麟太郎・渡部大輔 (東京海洋大学)
	2-4	回収期間法を用いたダブル連結トラック導入の経済性評価	西宮悠生・渡部大輔 (東京海洋大学)
10:30-10:40	休憩		
10:40-12:00	Session 2-2		
	2-5	コロナ禍における団子運転解消の効果分析	川辺怜(筑波大学)
	2-6	交差・合流を回避した総移動距離最小化問題	高木寛之(南山大学)
	2-7	施設集積に着目した鉄道駅の類型化と拠点性	定梶圭・鈴木勉(筑波大学) 巖先鋪(東京大学)
	2-8	住民サービス施設の到達圏からみる広域連携	堀越卓(筑波大学)
12:00-13:00	休憩		
13:00-14:20	Session 2-3		
	2-9	物流倉庫における保管棚の使用率を考慮したエージェントベースシミュレーション	松田樹梨佳(東京理科大学)
	2-10	Underground streets evacuation simulation based on the disaster prevention promotion plan: Esca SC as an example	LU Bingying・鈴木勉(筑波大学) 巖先鋪(東京大学)
	2-11	自己PRを用いた言語特徴量分析による適正評価	大里拓夢(東京理科大学)
	2-12	モバイル空間統計の秘匿化誤差に関する誤差解析	一井直人(筑波大学)
14:20-14:30	休憩		
14:30-15:30	Session 2-4		
	2-13	オンラインにおけるレゴブロックを用いたものづくりPBLの学習効果に関する研究	梅原慎吾(東京理科大学)
	2-14	ウィズコロナ時代の大学講義ー学生目線のキャンパスデザイナーー	加古捺巳(筑波大学)
	2-15	コロナ禍におけるヘルシンキ都市圏の現状	櫻井一宏(立正大学)